



開場 25周年記念公演  
演劇 『レオポルトシュタット』

2022.Autumn



ご観劇の前に

最新作『レオポルトシュタット』の日本初演が控える英国演劇界の巨匠、トム・ストップード。現在も精力的に活動を続ける実像に迫る。

生い立ち

1937年7月3日、チェコスロヴァキア中部モラヴィア地方の都市グリーンにて、ユダヤ系のユージン・シュトロイスラーとマーサ・シュトロイスラーの次男として生まれる。名はトマーシュ。父はパチャ製靴会社が経営する病院に勤める医師だった。グリーンはパチャ製靴会社の成功により工業都市として発展し、現在は統一された建築やグリーン映画祭の開催地としても知られている。トムが兄のピーターとともにグリーンに再び訪れたのは、1998年61歳のときだった。

1939年、ナチスがチェコスロヴァキアに侵攻した日に家族で会社の支社があるシンガポールへ引っ越す。

1942年、日本軍がシンガポールを侵攻。一家はインドへ疎開するが、父が乗っていた軍艦は日本軍の爆撃により沈没。トマーシュは、インドのダーズリンにある学校に通う。

1945年、母はインド駐在イギリス陸軍少尉ケネス・ストップードと再婚。トマーシュはストップード姓を受けてトム・ストップードとなる。

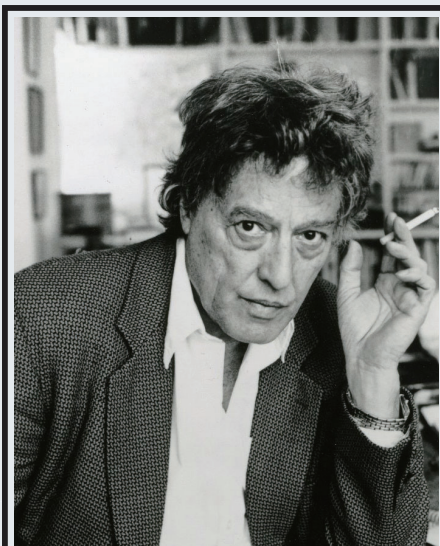


1歳のトム (『A Life』より)

翌年、家族でイギリスへ移住し、トムはノッティンガムシャー州の学校とヨークシャー州のポックリントン・スクールで学ぶ。

記者としてキャリアをスタート

1954年、ポックリントン・スクールを卒業後、大学進学はせず、一家が移り住んでいたブリストルのウェスタン・デイリー・プレス社の記者として、報道記事、映画、演劇の批評を執筆。ブリストル・オールド・ヴィックの演劇を観るようになる。1958年、ブリストル・イヴニング・ワールドの記者



British playwright and screenwriter

トム・ストップード

3 July 1937

として活動。この頃ピーター・オトゥールの『ハムレット』を観劇する。

1960年23歳の誕生日に、演劇ジャーナリストになることを決意。戯曲『水上の散歩』(A Walk on the Water)を執筆、同作は1968年に『自由人登場』(Enter a Free Man)として上演されている。

1963年、演劇雑誌『Scene』の演劇評論家として活動。『水上の散歩』がテレビドラマとして放映される。

1964年、フォード財団基金によりベルリンに滞在。『水上の散歩』がハンブルグで上演される。翌年『ザ・ギャンブラーズ』



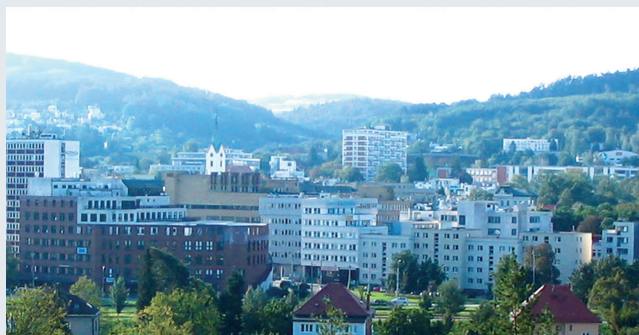
がブリストル大学で上演。

1966年、エディンバラ・フェスティバルのフリンジで『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』がオックスフォード大学劇団により初演。1967年、同作はナショナル・シアターのオールド・ヴィックにて再演され、ジョン・ホワイティング賞、イヴニング・スタンダード賞受賞。1960～70年代はテレビドラマとラジオドラマの脚本を多く書いた。

国際問題への関心

1977年、インターナショナル・アムネスティ(国際人権NGO)のイギリス代表者と共に、モスクワ、レニングラード、プラハを訪問。「プラハ 憲章署名者たちの物語」としてニューヨーク・レビュー・オブ・ブックスに発表。チェコスロヴァキアの知識人が言論の自由や人権擁護などを提唱した文書『憲章77』の出版禁止に対しトムは抗議。『憲章77』のメンバーである劇作家で後にチェコスロヴァキア大統領になるヴァーツラフ・ハヴェルが逮捕されたことも非難した。以降、トムはハヴェル作品の英訳を手掛け、『ロックンロール』はハヴェルに捧げられている。政治への不信

を精神病としたソビエトへの批判が背景にある『良い子はみんなご褒美をもらえる』、地下活動を行う演劇人に対する弾圧への抵抗『ドッグズ・ハムレット、カフーツ・マクベス』など国際問題や社会で自由を奪われる人々を描く作品が多くなる。



現在のグリーンの街並み

# Sir Tom Stoppard

## 映画脚本

70年代以降、国際情勢などを題材にした戯曲を手掛ける一方で、トムは映画脚本の執筆を開始。1978年、ウラジーミル・ナボコフ原作『Despair』を映画のために翻案する。

1979年、グレーム・グリーン原作の映画『ヒューマン・ファクター』脚本執筆。1985年、脚本を共同執筆した映画『未来世紀ブラジル』がアカデミー賞脚本賞にノミネートされる。1987年、スティーヴン・スピルバーグ監督、J・G・バラード原作、映画『太陽の帝国』脚本執筆。1989年、映画『オールウェイズ』と映画『インディ・ジョーンズ 最後の聖戦』の脚本をノンクレジットで執筆。

1990年、トムが脚本と監督を手掛けた、ゲイリー・オールドマンとティム・ロス主演の映画『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』がヴェネチア国際映画祭金獅子賞を受賞。ジョン・ル・カレ原作の映画『ロシア・ハウス』脚本執筆。

1991年、E・L・ドクトロー原作、映画『バリー・バスゲイト』脚本執筆。1992年、映画『恋におちたシェイクスピア』の脚本をマーク・ノーマンとともに執筆するが、ジュリア・ロバーツ降板のため撮影中止に。

1998年、主演のグウィネス・パルトロ

ウとジョセフ・ファインズために書き直し、第56回ゴールデン・グローブ賞、第71回アカデミー賞など多数受賞。ティム・バートン監督、映画『スリーピー・ホロウ』の脚本をノンクレジットで初稿執筆。

2005年、映画『スター・ウォーズ エピソード3』の脚本の仕上げをノンクレジットで手掛ける。2012年、映画『アンナ・カレーニナ』、2014年、映画『Tulip Fever』脚本執筆。

## 主な戯曲と受賞

トムは30歳のときに『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』で劇作家としての高い評価を決定づけ、1968年にブロードウェイに進出しトニー賞優秀作品賞など多数受賞。同年に『ほんとうのハウンド警部』が上演。1972年『ジャンパーズ』をナショナル・シアターで初演。演出のピーター・ウッドとは、以降の作品づくりにおいて友好的な関係を築いていく。1974年『トラヴェステイズ』がRSCにより初演、翌年ニューヨークで上演されトニー賞作品賞を受賞。

1978年『ナイト・アンド・デイ』はロンドン初演後、好評のためロングラン公演。同作品はイブニング・スタンダード賞を受賞した。

1982年に『リアル・シング』がロンドン

で初演後、ニューヨークで上演、トニー賞作品賞など受賞しロングラン公演。1993年『アルカディア』がナショナル・シアターで上演されるとローレンス・オリヴィエ賞最優秀作品賞を受賞。1997年『インヴェンション・オブ・ラブ』初演、チャーホフ『かもめ』の英語台本を手掛ける。そのほかの主な戯曲に、2002年『コースト・オブ・ユートピア』、2006年『ロックンロール』、2015年『ハード・プロブレム』、2020年『レオポルトシュタット』などがある。1978年、CBE勲章受章。1997年、バッキンガム宮殿でナイトの爵位を受ける。2008年、ダン・デイヴィッド賞。

日本には、2009年72歳のときに来日。第21回高松宮殿下記念世界文化賞(演劇・映像部門)を受賞し授賞式に出席。蜷川幸雄演出『コースト・オブ・ユートピア』が日本初演を迎える。非英語圏で上演された自身の作品を観劇したのは初めてのことだった。



# レオポルトシュタット

2022年 10月14日～31日 新国立劇場 中劇場

作=トム・ストッパード  
翻訳=広田敦郎 演出=小川絵梨子

出演者=  
浜中文一 音月桂 村川絵梨 土屋佑春 岡本玲 浅野令子 木村了 那須佐代子  
泉閣奈津子 内田健介 太田緑ロランス 椎名一浩 梶山さと美 鈴木勝大 鈴木将一朗 瀬戸カトリーヌ  
田中亨 野口卓磨 松本亮 万里紗 八頭司悠友  
伊奈聖風 久住星空 高橋菜々音 塚越一花 寺戸花 根本葵空 前田武蔵 三田一嶋

2020年1月25日、ロンドン・ウィンダム劇場にて『レオポルトシュタット』は世界初演を迎えた。ほどなくしてロックダウンのため上演期間は限られたが、同年のローレンス・オリヴィエ賞最優秀作品賞を受賞。2022年10月には、ブロードウェイでも上演され、また新国立劇場にて日本初演を迎えようとしている。レオポルトシュタットとはウィーン北部の地名で、多くのユダヤ人が住んでいた。20世紀前半からホロコーストを経た1955年までの激動のオーストリアに生きたユダヤ人一家の四世代にわたる物語を、翻訳に広田敦郎を迎え、小川絵梨子演劇芸術監督自らが演出を手掛ける。

Schedule		10/14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
		金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
13:00																			
15:00					休演							休演							
18:30																			

※10月19日(水)は2階に学校団体が入ります。 耳や目に障がいのあるお客様への観劇サポート公演がございます。  
※10月25日(火)は1階の一部と2階に学校団体が入ります。 詳しくは、公演ウェブサイトをご覧ください。

チケット取り扱い

ボックスオフィス  
☎03-5352-9999  
10-18時、休館日を除き年中無休  
Webボックスオフィス  
<http://nntt.pia.jp/>

チケット料金(税込)  
S席=8,800円 A席=6,600円  
B席=3,300円 Z席(当日)=1,650円



シアタートーク  
開催日

●10月18日(火) 公演終了後

出演=音月桂 村川絵梨 太田緑ロランス 瀬戸カトリーヌ

シアタートーク開催日の公演をご鑑賞いただいた方のみご参加いただけます。ご自席をご覧ください。

司会=中井美穂(各回とも) お問い合わせ=新国立劇場 営業部 TEL:03-5351-3011(代)

●10月26日(水) 公演終了後

出演=木村了 土屋佑春 田中亨 野口卓磨